

令和4年度第2回学区制審議会会議録

■会議の日時：令和4年11月17日 14時から15時50分

■場所：瑞浪市総合文化センター 3階 講堂

■出席者：学区制審議会委員：

成重隆志、小倉弘次、安藤昇、水野正、加藤博一、渡邊勝、
早瀬邦夫、小栗健正、加藤博之、熊沢紀子、加知岳志、
水向裕樹、堀幸恵、成瀬広之、黒沢実

欠席者：水野勝人、永井研、安藤裕子、藤田瑞穂、白井美絵、
石田和生、遠藤晶子、薄井義彦、堀部なを

事務局：伊藤慶和教育長、林恵治事務局長、
滝川直樹事務次長兼学校教育課長、兼松美昭教育総務課長、
松井克仁学校教育課課長補佐兼教育推進係長兼教育研究所主任、
堀田奈々学校教育課課長補佐兼教育支援係長、
山崎美和教育総務課課長補佐兼総務係長

講師：中津川私立川上小学校長中山英三

■議事：

1. 教育長あいさつ

皆様こんにちは。大変お忙しい中、第2回瑞浪市学区制審議会にご出席いただきまして、有り難うございます。

10月1日に前山田教育長の後を継ぎ、新しく教育長に就任しました伊藤慶和と申します。どうぞよろしくお願ひします。

今まで続いてきた瑞浪教育を更に発展させ、1人ひとりが大切にされる教育が進められるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

就任後、幾つかの地区の文化祭に参加させていただきました。また、陶地区のふれあい広場にも参加させていただきました。その中で、各地区で本当に子どもたちが大切にされていると強く感じました。同時に、幼稚園や学校がどの地区においても地域が一生懸命支えてくださっていることに対して本当にありがたいと思っています。私自身、平成26年から2年間瑞陵中学校、平成30年から3年間瑞浪小学校で校長をさせていただいている時も強く感じました。各学校は地域の方々に支えられて今があると感じています。これからもどうぞよろしくお願ひします。

本日は、限られた時間ではありますが、様々なお立場の皆様、いろいろな意見を言っていただければと思っています。よろしくお願ひします。

資料を送らせていただいております。「こんな資料が欲しい」「こんな情報

はないか」というご希望がありましたら、遠慮なく事務局の方へお問い合わせいただければと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、今日は、よろしくお願いします。

2. 会長あいさつ

皆様、改めましてこんにちは。皆様、お忙しい中ご出席いただきまして、有り難うございます。

前回の8月から3か月強が経ってしまして、その間に事務局から事前に配布いただきましたアンケート結果の集計等の資料が整いまして、本日の審議会を向かえるわけです。アンケート結果を見ますと皆さんの思いはそれぞれかと思いますが、皆さんの立場に立った貴重な意見がこのアンケートに集結されていると思います。そういった中で、地元の事で恐縮ですが、先程伊藤教育長からもご紹介がありましたが、つい先日、陶町で3年振りに「ふれあい広場」が開催されまして、教育長にもご出席いただきました。丁度、陶小学校創立150周年ということで、当日航空写真を撮るために、陶小学校は児童が78名しかいないので航空写真が撮れないということで、「ふれあい広場」が開催する時期ですので、町民の皆様に集まっていたいただきまして、300から400名位の方に集まっていたいただきました。そういった中で、年配の方々が、閉会式や開会式で児童78名が集まっている姿を見て、「へえーこれだけかあ、実際に見るとほんとに少ないな。」という印象を皆さん持たれたみたいですね。我々の頃ですと、1学年が100名以上、もう少し上の世代ですと150名と多い時代でしたので、本当に今、人数が少なくて、これが良いのか悪いのかという事もあります。が、「ふれあい広場」というのは、まちづくり、区、消防、老人会の方と幅広い団体が協力して出来た行事です。そういった地域コミュニティの観点からみると、やはり拠点となる小学校は残って欲しいという皆さんからの意見がその場でも聞こえました。そういった中で、どういう姿が全ての人にとって、ベターなのかベストなのか今日もこのアンケート結果を基に討議、或いは複式学級というのは皆さんほとんど経験ないと思いますので、今日は中山校長先生に、複式学級の実態をビデオをみながら説明していただけるという事なので、有意義な時間にしたいと思います。よろしくお願いします。

事務局：

本日の会議は、委員24名中15名の出席で、開催要件を満たしていることをご報告します。

本日は複式学級の事例紹介ということで、実際に学級運営をされている中津川市立川上小学校の中山先生にご出席をお願いして運営状況についてご紹介いただきたいと思います。それでは、これより加藤会長に議事の進行をお願いします。

議長：第1回の議事録についてご意見のある方はありませんか。

委員：【意見なし】

3. 議事

(1) 前回会議より追加説明

- ・中学校における教員配置の基準について
- ・学校統合以外の検討方向について

(2) 保護者アンケート結果について

(3) 各地区区長会説明及びアンケート結果について

(4) 複式学級について（事例紹介）

【中津川市立川上小学校 中山英三校長】

事務局より一括説明。

(5) 意見交換

議長：

複式学級の実際の運営状況について中山先生の説明で良く分かったと思います。アンケートの結果や複式の説明を踏まえて、今日は主に小学校の複式学級の課題について検討したいと思いますのでお願いします。

これまでの説明の中で、質問のある方は、質問をお願いします。

委員：

瑞浪市の場合は、複式学級になった場合の先生の数や支援される方の数はどのように考えていますか。

事務局：

複式学級になると非常勤講師が1名貰える様になっていますので、1名が片方を教えているときには、もう片方を非常勤講師がみるといったチームでの運営をできると思います。もし足りない場合には、市の支援員の運用を考える等、できる限り子どもたちの学習が成立する様に考えています。

議長：

中山先生に確認ですが、川上小学校の生徒数は32名ですが、本採用の先生の数は何名ですか。

中山：

学級数が4ですので、教頭を抜いて定数が4名です。

議長：

加配が、県費A・Bで2名、市費で1名の合計3名ですが、今の説明の中で、非常勤講師が4名加配ということで、実際後は市の方の加配となるのですか。県費で2名ですが、瑞浪の場合は、1名ですか。

中山：

県に学校から要望を出します。川上小学校の場合は、複式解消加配が県費Aで、複式解消のために1人で授業のできる人を要望するものです。県費Bは、複式は少人数の為に特別支援学級が無いので、特別支援を必要な子のための加配です。

議長：

実際3名の非常勤講師の方がみえれば、ほぼ学年を分けて授業が可能となり、複式学級といってもほぼ今までと変わらないのでしょうか。

中山：

県からいただける実数にもよりますが、中には、ひとりで授業はできないという縛りのある方もみえたりするので、支援という形で付く場合は、どうしても複式という形になります。いただける実数と種類によって変わってくると思いますので、やりくりをします。

委員：

中津川市の状況が分からないので、他校と合併が出来なかった等、地域の状況を教えて欲しい。

中山：

複式学級を持っている学校は3校あります。合併等の背景については存じ上げませんが、地域の方の思いが強く、かなり少人数になってきて、若い親の中には「統合をした方が良い」という意見もありますが、年配の方で思い入れの強い方がすごくあり、すごく学校に協力的なので、その方たちは「何とか残したい」ということで、学校にも働きかけてくれている状況です。

委員：3校の位置関係はどこですか。

中山：恵北だと思います。

議長：統合についてもこの協議会で審議するわけですが、教育委員会としては、今の3校の統合についての方向性が過去に出てきていますか。それ

とも、保護者や地元の力で頑張るということで統合という意見は出てきていませんでしたか。

中山：

山口については「やさか」という言葉があり、山口・坂下・川上で「やさか地区」といい、中学校は坂下中学校に統合されています。小学校も考えなければいけないという思いはありながら、地域の方の感情もありますので、なかなかそこまでいけていません。

委員：

複式学級は2学年で複式学級であって、3学年で15人以下になった場合、3学年での複式学級となる場合がありますか。

事務局：

2学級を含むもので、3学年を含むものではありません。

委員：

陶の場合は、現4・5歳児からスタートするわけですが、5歳児が2年生の時は1学級、2学年セットしていくと下の学年は6年生になると複式にはならないということによろしいですか。

事務局：

おっしゃる通りです。組む学年同士の人数によって変わります。

議長：

ビデオを見てみると、授業の声が気になります。集中して学習できていますか。それによって、学力は落ちていませんか。一斉学力テスト等の結果はどうですか。

中山：

学年それぞれに差はありますが、複式によって左右されているとは思いません。声は確かに気になりますが、慣れてきます。

議長：

瑞浪市も複式が出現してくると思いますが、川上小学校のような授業体系は可能ですか、例えば数学だけが1つの教室で、他の授業は別々の教室というようなことは可能ですか。

事務局：

配置される人によって変わってきますが、1つの教室でやる場合もあるでしょうし、人数が減れば空き教室も増えてきますので、隣の教室で分けてやるとか工夫することが可能と考えています。市としては、複式学級が出現した場合には、加配で非常勤講師を要望して付けてもらう事を働きかけて、子ども達が学習しやすい環境を整えていきたいと考えています。

議長：

今回のアンケートで、アンケートを取る前に保護者の方に今日のような複式の説明をしていますか。

事務局：

していません。アンケートを取った中で、複式学級について理解されていないようでしたので、まずは今日、審議会委員の皆様の説明させていただきました。地域から要望があればPTAの会議で説明したりできると思いますので、要望があれば対応したいと考えています。

委員：

教育委員会として、今度のアンケート結果についてどのようにとらえていますか。

事務局：

複式学級や単学級について不安に思っている方もいますが、地元の方にとってはそのままの方が良いと思ってみえる方も多く、地元意見をどう生かしていくかという事を考えました。また、教育委員会として説明が足りない部分があったと思いましたので、PTA等の会で説明できたらと考えています。

委員：

この件について、教育委員会で審議しましたか。

事務局：

経過を踏まえながら、話し合い、まとめをして会議に至っています。

議長：

アンケート結果をみますと「複式学級を解消する対策案として、小学校の統合や学区の変更が考えられますが、このことについてあなたはどう思いますか。」の問を見ると、保護者の方をみると「現状維持」と「解消すべき」がほぼ半々で意見が2つに割れている印象ですが、実際に保護者の方の意見を聞いたときに、教育委員会としては、どういう印象を持たれましたか。

事務局：

このような現状があると把握しました。どちらかに偏るのではなく色々な考えがあるととらえています。

議長：

区長会からは現状維持の意見が多いと思いますがどうですか。

委員：

中学校が統合されたこともあり、子どもたちが少しでも通いやすい線引きが出来ればと思います。学園台が稲津へ通うのもありだと思いますので、線引きを考えていただきたいと思います。

委員：

子どもたちや親御さんの立場から言えば、教育環境の向上が一番重要だと思います。複式学級の理解がなされていない中でのアンケートであれば、しっかりと周知した中で、もう一度アンケートをとることが大事だと思います。自治会の立場から言えば、小中学校は地域の活性の拠点です。それがなくなることは、住民感情から言えば良くないが、親御さんが教育環境の向上を望むのであれば、第1に子どもの数を増やすための施策をしっかりと取ったうえで統廃合へ進むべきだと思います。しかし、すぐにできることではないので、色んな策を教育委員会だけでなく、市全体で捉えていくべきだと思います。

委員：

教育委員会から将来的に3学級になってしまうという話を聞いて、まちづくりを中心に日吉の人口を増やす対策をはじめました。空き家対策や子どもの支援を進めていかなければならないということで進めています。若い人からは、日吉から瑞浪へ行くだけでなく、日吉へ瑞浪からバスで来たかどうかという話もあります。日吉中学校が統合して、日吉の子どもたちはバスで通っていますが、どれぐらい経費がかかっているかお聞きしたい。学区は区域で分けてありますが、学年によって学校の先生付きで日吉までバスで来る方法はないかという話も出ています。いずれにしても、市全体として人口を増やすという事をしっかりと考えていかなければならない。その為に私たちも主力になってお手伝いしなければならぬと思っています。14地区の区長がそれぞれ空き家の情報を調べています。農地付きの民家を名古屋の方に売って、農業をしながら子育てをしてもらってはどうかとも考えています。

議長：スクールバスの費用は今わかりますか。

事務局：金額は今はっきり申し上げられませんが、路線数としては、陶2路線、釜戸3路線、日吉3路線運行しています。

議長：

PTAとしては、小学校のアンケートをとった結果に対して、全体的な感じとしてはどうですか。

委員：

「複式は何？」とおっしゃる方が圧倒的に多いです。今、映像で拝見しましたが、YouTube等で、色んな学校の複式学級の映像がながれています。実際、不安がみられる方が多いので、ぜひ積極的にみていただきたい。PTAの小学校の役員は地区ですが、瑞浪・稲津・日吉・陶・釜戸のPTAの役員さんがみえないので、そちらの方にも聞いていただくといいと思います。

す。

議長：

来年か再来年かわかりませんが、現在、幼稚園の子が小学校にあがった頃に複式になります。幼稚園の保護者としての何か意見があれば、お願いいたします。

委員：

先日の役員会で、複式学級については仕方が無いのかなという意見が多かったです。一度、当事者になる保護者の方や釜戸地区の保護者の方に複式学級について説明していただけると、皆さんイメージがわいて、複式学級があって、その後の小学校の統廃合の話になると思います。

議長：

保護者のアンケートの6番ですが、幼稚園を含む全体のアンケートで、多くの保護者が学区の見直しを希望されています。今回、学区の審議はせずに、あくまで複式・統合の将来的なありかたということでしょうか。

事務局：

保護者の方や地域の方の意見がありますので、複式学級以外、学区のことについても考えていくことは必要かと思っております。スタートしたばかりですので、意見をいただきながら考えていきたいと思っております。

議長：

青年会議所へ教育委員会から説明があったということですが、それに対してご意見があれば、お願いします。

委員：

メンバーに20代30代の子育て世代がいますので、どちらかといえば、保護者目線の考え方、意見がありましたので、簡単にまとめました。中学校が3校に統合して、地域に中学校がなくなったということになると、小学校の存在というのが地域の皆さん、保護者の皆さんにとっても大切な場所であり、役割が一層深くなってくると感じています。先程、複式学級についての理解がまだ深まっていないというご意見がありましたので、今後どうしていくかという話をしていくうえで、地域の皆さん、保護者の皆さんに正確な情報をしっかり説明をしていくべきだと思います。先程、小規模校・大規模校で、それぞれメリット・デメリットがありましたが、それを正しく理解したうえで、今後のことを話し合っていきたいと思っております。そのうえで、望んだ方が希望の学校に通える制度を作っていけたらと考えています。小規模校のデメリットのひとつとして、多様性に触れる機会が少なくなるということがあります。これは他校との合同授業や行き来をすることで、多様性に触れる機会をつくることができると考えています。あ

と、ICTを活用した授業を取り入れるというのもあると思います。地域に学校を維持するために、学校以外の機能を持たせることで、教育の場としてだけでなく、地域に必要な場所にしていけたら地域に残す価値があがると考えています。人口が減少してきているなかで、財政の状況が更に小規模になった場合に、子ども達への教育の面でデメリットが増えてしまうと思われまので、ある程度の基準を早めに決めたくて対処をあらかじめ考えていくことが大切だと思います。個人的には、出身校が無くなってしまふのは淋しい気持ちになりますが、子どもの教育という事を考えると複雑な気持ちになりますが、親としては子どもの教育を最優先で考えたいと思います。

議長：

幼稚園では、合同保育もありますし、今のビデオも見てご意見があればお願いします。

委員：

陶幼稚園は0歳児から5歳児まで29名で生活しています。3歳8名、4歳9名、5歳児5名なので4歳と5歳が合同になって、14名で一緒に生活しています。合同保育になって4年程経つので、保護者の方から特に意見はなく、保護者の方もすごく協力してくださっています。園は、生活と遊びの場なので5歳児の姿を見て4歳児が真似をして、憧れの気持ちを持ちながら遊んだり、5歳児も小さい子を可愛がってくれたりして、今はすごく優しい気持ちが育っていると思います。4・5歳児の担任が1名なのでビデオと同じような形で、支援児の先生と補助の先生と3人で見てくださっていますが、年齢に合わせて教育もさせていただいているので、空き部屋を使って教育をしています、その時に先生が両方の部屋を見ていくというのは、先生の力量や準備の大変さもあり、もちろん4歳のクラスに1名、5歳のクラスに1名という形が一番良いと思いますが、今のところはこのような形でやっていますので、先生の大変さはビデオを見て一緒だと思いました。

議長：

今、合同保育をされていて、そのまま小学校に移っていてもスムーズに行けそうですか。

委員：

子ども達は、顔見知りでもあり、お互いの良い所や面白いところなど色々知っているの、今のところは大丈夫だと思いますが、大きくなると色々な事が出てくる心配もあります。

委員：

補助員はどういう方ですか。先生を辞めた方ですか？教員免許は持っていますか。その方がいれば、2学年、できるのではないですか？制度があつて、教えてはだめだとかあるのですか？新任の先生より教え方が上手かもしれません。ベテランの方にみえました。

中山：

教員の免許はもっているが、中学校の英語の免許なので、小学校は教えられないです。これは算数のサポートにはいっています。英語の単独の授業は持っています。

来られる補助員の持っている免許によります。小学校の先生が来るとは限らない。

委員：

中津川市では複式学級になる前にアンケートをやりましたか？複式にしますか？合併しますか？というような。

瑞浪のこのアンケートを見ると、ほとんど半々なんです。中津川市もそうでしたか？

中山：

今、分からないです。

議長：

県費A、Bの方は、単独授業が出来ないわけですね？資格の問題なのか？法的な問題なのか？

中山：

県費Aは授業ができます。県費Bは、特別な支援が必要な児童に付けられた加配なので、みんなを見ることは出来ない。県からいただく名目によります。

議長：

加配の先生の資格によって、複式の運営も、うまくいくのか、大変なのか場合によって変わってくるということですね。

大湫の委員さんは、大湫の複式の経験があるので、ご教授をお願いします。

委員：

我々小学校の時に複式を経験していますし、子ども達も経験しています。でも、その小学校も釜戸へ行ってしまつて、釜戸中学校も合併してしまつて、大湫は小学校も中学校もなく、明世とは全く別の反対の立場なんです。割と複式は先輩後輩と仲良く授業をやっていた記憶です。先生が上手くやっていたのかもしれませんが。なんの問題もなかった。ただ、小学校も中学校も統合されて、親の通学の負担がかなりあった。ただ子ども

もたちの教育環境が一番大事だと思いますが、少人数で学校生活を送るのがいいのか、大人数で送るのがいいのか子どもたちが判断しないかんでしょうが、社会的には人数が多くて、もまれたほうがいいのかという気はしています。大湫の立地条件からしていえば、町中に小学校も中学校もなく、昼間は子どもが全然いなくて、幼児が数人いるだけなので、さみしい、静かな状況です。何か行事があると子どもが帰ってきて、釜戸とか他の地区からも来ていただいて、催し物に参加していただいて、そういう時は非常に賑やかになり、学校は地元にあったほうがいいと思う。アンケートの中でも、学区を見直した方がいいというのがありますが、見直すのは簡単ですが、学区を見直すといっても、行政が、市が、まず人を増やすこと。町中ばかり増やしてもなんともならないので、周辺のまちの人口を増やすことを考えていただきたいと思います。それで今の複式を解消するのが一番だと考えます。

議長：

今回は主に小学校のことで話を進めていますが、PTAの家庭教育委員長、女性の保護者の立場でご意見をお願いいたします。

委員：

複式というものを初めて知りました。もし自分の子どもが当事者になったら、子どもに意見を聞くと思う。どう思う？どうしたい？いじめられないか心配？子どもたちの意見も聞きたいと思ってます。親だけで、この場だけで決めるのは残酷なことかもしれないと思いました。

議長：

今回は、保護者とか、区長さん方にアンケートをお願いしましたが、子ども達にはどうしますか？

事務局：

現段階では、子ども達には考えていませんが、いろいろ審議する中で、そういう意見がありましたら検討したいと思っています。ただ、小さい子に聞いて分かるかどうか、慎重に考えていきたいと思っています。

議長：

小学校中学年以上とか、ある程度分かる年齢にアンケートをとることも、ましてや、中学校になればいろいろと考えもまとまってくるので、必要かもしれません。一番当事者がどう思っているのか、それも大事な論点の一つかなと思いますので、機会があったらお願いしたいと思います。

事務局：

先ほどのバスのことについて、金額が確認できましたのでご紹介させていただきます。

北中につきましては、6路線で3,420万円ほど、南中につきましては2路線で1,480万円ほど、合計4,900万円ほどかかっています。

議長：

例えば、それだけの費用があると、加配の先生の予算に回すことはできますか？

市にとって、複式を残し、現状維持でいくのがいいか、あくまで単純に予算的だけの話ですが、統合したほうがいいのか、そうするとまたバス代が千万単位でかかってくるので、それで天秤にかけるのは論点が違いますが、実際はどうですか？

事務局：

実際の話でいくと、施設面で考えると、来期の改修で億というお金がかかってきますし、施設の管理経費も何千万単位でかかってきます。

バス経費と、全体の管理費を比べるとバスの方が安いとはなってきます。費用対効果というものもありますが、やはり地域の活性化ですとか、今、まちづくりの中で、いろいろ地域で頑張っていただいているので、費用対効果だけで考えられないことが非常に多いので、困っています。

議長：

当然、お金で決められる問題ではないので、こうして集まって審議をしているわけですが、今回、アンケートが出て、複式の勉強をして、意見をいただいたわけですが、まとめというのは第3回で、ある程度小学校に関してはまとめる方向なのか、もう少し何かしようか、今後のスケジュールをお願いします。

事務局：

委員さんからも意見がございましたが、複式について、もう少し詳細なことをお示したうえで、アンケートを取るとか、複式の説明が足りないという意見もありましたので、考えたいと思います。回数も限られますので、次回、年明けに会議を開きたいと思います。次回、あるいは2回目、年度内に小学校の複式のことのまとめをしていただきたいと思います。新年度になってから、中学校の単学級のことを検討していきたいと考えています。

議長：

教育長の意見をお聞きしたいとの声がありますので、お願いします。

教育長：

それぞれの地区のお立場で、アンケートの結果もふまえながら、さらに川上小学校の説明を受けて、お考えを聞かせていただきまして、とても参考になりましたし、これから答申を作るにあたり、今日の皆さんのご意見は

答申作成に近づいていけるご意見がたくさんあったと思っています。本当にありがとうございました。もう1、2回でなんとか答申を作成できればと思います。またお力をお貸し頂いて、まとめていただきたいと思います。

議長：

それではこれをもちまして、第2回審議会を終了します。

4番、その他で事務局より報告をお願いします。

事務局：

次回審議会は来年1月頃を予定しています。後日日程調整をさせていただきます。

複式学級のことをもう少し詳細に分かるようにPTAの方に説明させていただきます。

これをもちまして、第2回学区制審議会を閉じさせていただきます。